

今月のピックアップ

- ・米良美一チャリティーコンサートを終えて
- ・みんなのみなとVOL.5
- ・私たち西区連絡協議会（仮称）の取り組み
- ・編集後記

編集・発行元

横浜中部就労支援センター内

西区障害者就労支援型施設準備室

〒220-0023 横浜市西区平沼1-38-3 横浜エムエスビル4F

TEL 045-350-2044 (担当: 熊井)

MAIL satomi.kumai@tomoni.or.jp

ホームページ <http://www14.ocn.ne.jp/~nisiyoko/>

今回は、先月29日に行われたチャリティーコンサートの主催者であります、西区社会福祉法人型障がい者地域活動ホーム 建設委員会副委員長 深野博子様より当日の様子や感想を伺いました。

米良美一チャリティーコンサートを終えて

11月29日の米良美一さんチャリティーコンサートには大勢の方々が開場にお越しいただき、とてもうれしく心より感謝いたしております。ありがとうございました。当日にお越しいただいた方々から、歌もお話も堪能でき、とても心温まるコンサートでしたというお言葉を伺い、イベントを企画準備していた一人としてホッとしています。

来場された人に感想を伺いましたら、

「痛そうなのがんばってうたっていた。歌うのはたいへんだと思った。」(5歳女兒)

「障がいがあるという事は知っていても実は良く分かっていない事に気がついた。お話が心にしみました。」(一般40代女性)

「病気のせいで背が143センチしかない事や骨が曲がっている事でいじめられ、世間を憎んだ事などを赤裸々に語り、障がい者の親や家族がどんなに辛いかわかる僕には分かりますといった瞬間涙してしまいました。」(障がい児の母)

「髪は金髪でアニメの中で、宇宙からやってきたヒーローのようでした。声は美しく天使のようでした。こんな美しい声で歌えるなんて天使のような清らかな心をお持ちなんだとうっとりしましたが、お話はとても辛口でした。両方を表現する事を米良さんは望んでいて、歌はプロですがお話の部分は聴きに来ている人と一体になって自分の気持ちを話されていると感じました。非常に辛い思いをして苦しんでいる、戦っている最中と思いました。プロの歌手としてみるのではなくひとりの障がいがある人が戦っている最中なんだと思い共感しました。勇気をありがとう。」(施設職員)

「ヨイトマケの唄は魂がこめられた生命の唄のような強いメッセージを感じました。お母さんの写真を思い出し、今回の歌と重なって涙が止まりませんでした。」(障がい児の母)

「今回のコンサートで米良さんから元気と勇気を頂きました。お体の状態がベストではなかったのにそんな事は少しも感じさせないあの歌声・声量とお話は最高でした。」

「誰も悪くないです。みなそれぞれが一生涯懸命なだけだから。米良さんの言葉が沁みました。」(障がい児の母)

「話は難しくてよくわからなかったけど「皆でがんばろう」ってことだね。」(小3女兒)

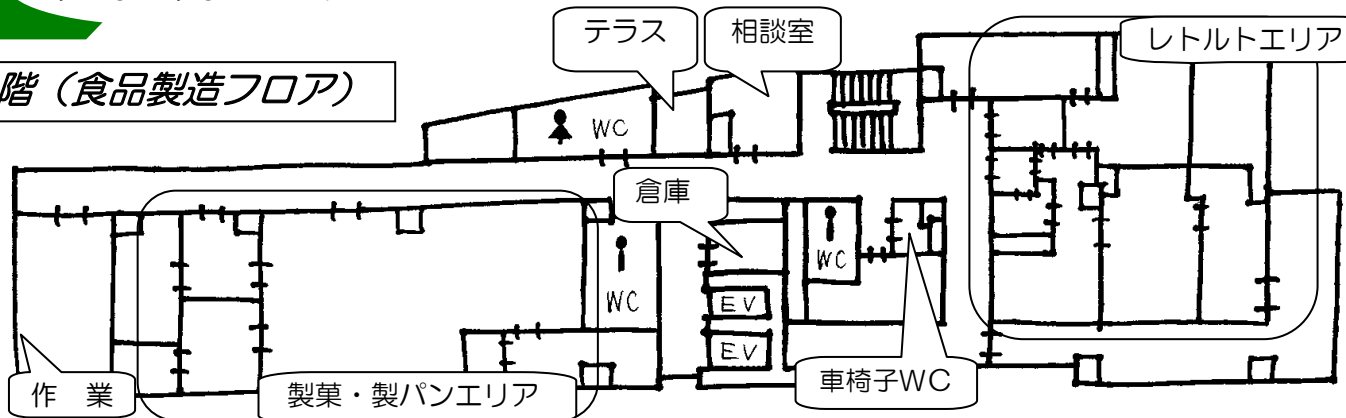


今回のチャリティーコンサートを開催するまでには約1年近い準備期間がありました。

その間には多くの出会いがあり、勇気をいただきました。障がいがある人の生活はまだまだ理解されない事が多くあります。偏見や差別は何気ない生活の中に隠されています。

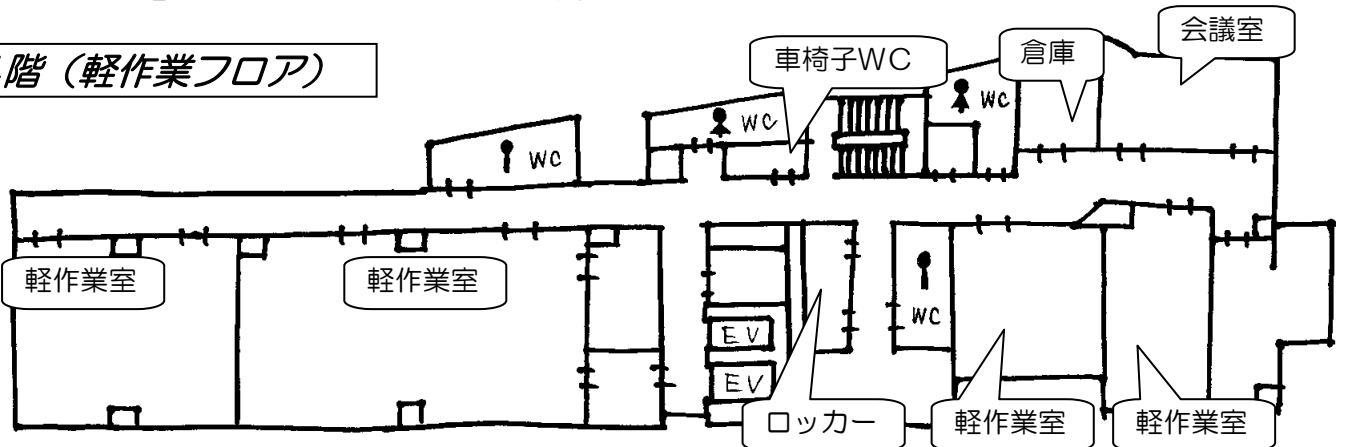
全ての人があるのまますを受け入れ、自分らしい生活が出来る社会になる事を願っています。

3階 (食品製造フロア)



3階は、食品製造のフロアです。パンやお菓子作り、あるいはレトルト食品づくりを通して労働習慣を身につけていきます。また、この活動を通して、生活のリズムを整えていきます。

4階 (軽作業フロア)



4階は、お菓子の箱を組み立てたり、車の部品を加工したり・・・現在の更生授産所と西福祉授産所で行っている仕事の一部を引き継いで作業を行う予定です。また、新しい仕事も取り入れていく予定です。

私たち西区連絡協議会 (仮称) の取り組み

みんなで作ろう住みよい西区!

が、スローガンではありませんが今回は私たち西区連絡協議会 (仮称) の取り組みを紹介します。思い起こせば、来年新しい法人型地域活動ホームができることを契機に新たな地域支援ネットワークを西区に構築するため、今年5月に地域の関係機関が集まったのが最初でした。その時はまだお互いの顔もやっっていることも知らずとりあえず集まった、そんな印象だったかと思います。しかし、その後地域作業所「無限夢工房」の樋野さん、西区地域活動ホームの池田さん、横浜共生会の阿部さん、横浜中部就労支援センターの西岡が中心メンバーとなって集まり、今の時点で何ができるのか、またどのような活動をしていきたいのかを話し合いました。その後何回かこのメンバーで検討し、また間に全体会を挟みながら出した結論は、①会議のための会議にならないようにしよう、地域のニーズをきちんと吸い上げて対応できる、そんな実行力のある組織にしよう。②お互いの組織の壁を越えて本当の意味で連携していこう。③みんなで研鑽を積み西区全体をレベルアップしていこう。そんなことでした。話し合いの中ではこの集まりが地域自立支援協議会に発展するというプランも上がりました。そこで、これらの目的を達成するためにまず支援者が入りやすいものとして月1回の事例検討会を行うことになりました。以降事例検討会は毎月1回実施しており、今月で7回目を数えます。また、アイデアとしては研修部会、自立支援協議会を考える検討会を立ち上げるというものが上がっています。また10月には外部講師を招いて「自立支援協議会とは」と題し、研修会を開催しました。

これらの活動を通じて私たちは一貫して「よりよい地域社会とは?」というテーマで活動していると言っても過言ではないと思います。使い尽くされた感もありますが、障がいがある方にとって住みよい社会は、そうでない人々にとっても暮らしやすい社会のはずです。障がい者福祉というカテゴリーだけではなく、地域社会全体をよりよいものにしていく試金石として、私たち「西区連絡協議会」は今後も活動していきたいと思っています。

今後は中心となるメンバーも増え、法人型地域活動ホーム、就労支援型施設開所に向けて少しずつではありますが、地域との関係を深めていければと思います。よろしくお祈りします。

編集後記

①本通信にも紹介されている米良美一さんのコンサートに行き参りました。美しい歌声と同様に、米良さんのトークが一層コンサートを引き立たせていました。その中で「温故知新」という言葉を米良さんは話されていました。古きをたずねて新しきを知るという意味の言葉を米良さんはとても大切にされていらっしやるとのことでした。新しいモノに移りしがちな昨今ですが、古くから愛されている製品や文化、伝統を大切にしたいものですね。

②景気後退を端に発した深刻な報道が日々繰り返されています。つくづく感じることは、働くことのできる喜び、そして毎日を安心して暮らすことのできる喜びであります。これらへの感謝を決して忘れることなく、年の瀬を過ごしていきたいですね。

③日本漢字能力検定協会が公募した2008年の1年を反映する漢字が「変」に決まりました。辞書で意味を調べてみると(『新明解国語辞典 第五版』三省堂 2000年)、①違った状態や局面になること②社会生活の秩序を乱す出来事③正常と思われない様子④半音低くすることの4つの意味がありました。私たちににとっては未来へつながる前向きな意味での「変」の1年であったと信じたい今日この頃であります。

「県央・共生通信」は2法人合同の新施設準備委員会が発行しています。